



梅田 彰

■有限会社 FU設計

熊本の地域型住宅を考える

皆さんは自分が今造っている住宅の温熱性能を知っていますか。

改正省エネ法では、熊本は地域区分6で、外皮平均熱貫流率の基準値は $0.87w/(m^2k)$ 、冷房期の外皮平均日射熱取得率の基準値は2.8です。下の写真は、地域の気候や、周辺環境に配慮し、熊本の木材や自然素材を使い、地域の工務店が手刻みで造った住宅です。



この家の温熱性能は、外皮平均熱貫流率が $1.42w/(m^2k)$ 、冷房期の外皮平均日射熱取得率は3.1です。この数値では改正省エネ法の基準に満たないため2020年以降は、造れなくなるのです。

省エネ法は2013年10月に改正され、2017年から $2000m^2$ 以上の建築物の省エネ法への義務化が始まり、2020年には全ての住宅への適合義務化が求められます。

この工程表を実施するために、設計者や施工者に対して、住宅省エネルギー技術及び、評価方法の普及のため、講習会が開催されています。しかし、省エネルギー性能や基準の理解など進んでおらず、身近な問題としての認識が無いまま、改正省エネ法の工程表は進んでいるのです。

この義務化により写真のような開放的な住宅は非常に造りにくくなります。外皮性能を上げるために、断熱性能をあげ、結露防止対策を講じ、窓の大きさを小さくしなければなりません。縁側、無双窓、玄関引違戸を熊本の地域から無くしても良いのでしょうか。

このような木造住宅の2020年省エネルギー基準義務化問題をテーマに、日本建築士会連合会、建築家協会、建築学会、東京建築士会、木の建築フォーラム5団体が主催し、これまで2回の公開フォーラ

ムが開催されました。今年12月に京都で3回目の公開フォーラムが計画されています。この準備会に熊本からも調査研究委員会として参加しています。

改正省エネ法には、外皮の基準に3つの例外規定があり、その例外3には、「一次エネルギー消費量の基準は満たしたうえで、地域の気候及び風土に応じた住まいづくりの確保の観点から、所管行政庁が認める場合」となっています。

この例外規定を担保するためには、私たちがこの問題を深くとらえ、木造住宅の省エネルギーに対する知識や、意識の向上をはかり広く議論の輪を広げる必要があります。

そこで、8月から「熊本の地域型住宅を考えるセミナー」を始めます。

改正省エネ法を理解し、地球温暖化防止のために、私たち建築士は何をすべきでしょうか、熊本の地域において、適切な断熱性能はどの程度か、省エネの熊本らしい評価方法はないものか、などを考えたいと思います。

次年度以降、研究者など交えながら2020年の改正省エネ法の義務化に対して熊本に合った対策をつくっていきます。

多くの方の参加をお願いします。途中からの参加も大歓迎です。



宮坂 景介

■有限会社 宮坂建設

未来を担う人材の育成と 技術を継承する活動 「やっちょろ版職人塾」

八代支部では建築士会と地元の大工組合と共同で活動している「やっちょろ版職人塾」があります。この職人塾は若手建築士・職人の育成と伝統技術の継承を目標に掲げて、日々活動をしておりますのでこの場をかりまして紹介させていただきます。

【職人塾の活動概要】

八代には大工、左官、建具職人といった建築に関連するさまざまな分野の職人さんがいらっしゃいます。やっちょろ版職人塾では職人さんのこだわりや技術を生で披露していただき、若い職人や建築士が職人さんの専門分野に興味を持ち、今後の仕事に生かしてもらうことを目的としています。

同業者の方も他社の職人さんの技術を見る機会はありませんので、非常に参考になるのではないかと思います。

建築士くまもと



【具体的な活動内容】

ここで実際の職人塾の内容をご紹介します。2015年4月に行いました職人塾は、地元の大工さんによる伝統構法の木組みについて、原寸に近い模型を実際に組み立てながら講義をしていただき、その後土壁の練置き漕を見学し、管理方法について語っていただきました。合計4時間の長時間の講義となりましたが非常に好評で、参加された方々から次回もぜひ参加したいという声を多数いただきました。



【職人塾活動の広がり】

ありがたいことに熊本日日新聞に職人塾の活動を取り上げた記事が掲載されました。

また2015年6月に開催された「建築士の集い in 佐賀」におきま

して、九州各県の建築士の皆様の前で職人塾の活動を発表させていただきました。

集いでの発表後、他県の職業訓練校の関係者の方から連絡があり、次回の職人塾を職業訓練校の生徒に見せたいというご要望をいただいています。八代支部としましても、職業訓練校さんと連携して職人塾を開催できるように企画～準備を進めています。

(2015年7月現在)



【これからの職人塾】

塾生は講義内容によって、講師になったり、受講者になったりします。自分の仕事や得意分野を塾生の前で披露・アピールしていただき、受講者は馴染みの少ない専門分野の勉強をすることができます。

塾生のみなさんがともに切磋琢磨し、塾生同士の交流を図り、つながりを築くことで、将来地元から伝統構法や建築分野の職人が絶滅してしまわないよう、今後もやっちょろ版職人塾を継続したいと考えています。



森高 俊一

■熊本県土木部建築住宅局住宅課

九州ブロック研究集会 建築士の集い 佐賀大会について

青年部副部会長を務めさせていただいております森高と申します。

平成 27 年 6 月 27 日に開催された「建築士の集い 佐賀大会」に参加してきました。

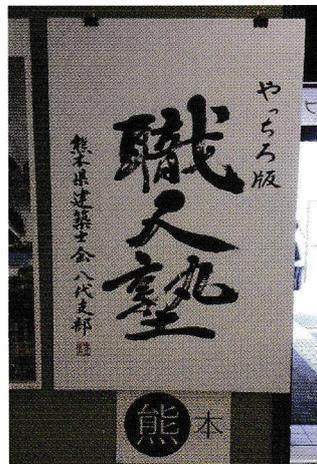
今大会は運営から各県の発表まで本当に熱気にあふれた素晴らしいものでした。本稿で、その一片でもお伝えできたらと思います。

まず、「建築士の集い」とは、各県の地域実践活動の発表の場として開催されているものです。発表後には聴講者による投票が行われ、最も票を集めた最優秀者は、栄えある「九州ブロック代表」として全国大会に臨むことになります。

そのため会場に集まるのは、地域実践活動の発表を通して、建築やまちづくりなどにかける熱い思いを伝えにやってきた発表者と、その応援団たちであり、熱い方々ばかりです。

代表をかけた戦いは発表前夜、文字どおり「前夜祭」から始まります。熊本県からも発表者 2 名を含む 4 名が参加し、他県の方々と大いに語り、飲ませ合い、親睦を深めました。

そして大会当日。まずはメインイベントである地域実践活動発表から始まります。熊本県は 3 番手、八代支部による「やっちら版職人塾」についての発表です。



▲ひときわアツい！熊本のパネル。

伝統工法の技術を若手建築士・職人に継承すべく実技講習を実施するなどの活動報告に、会場が聞き入りました。結果は最優秀こそ逃しましたが、興味深い内容と、伝わりやすいよう練られた発表に高い評価をいただきました。八代支部の皆さん、準備から発表まで、大変お疲れ様でした。

さて、「集い」はこれで終わりません。地域実践活動発表の次は 4

つの分科会が準備されていました。

内容は、講演、グループディスカッション、家具製作の見学など幅広いもので、私は佐賀出身で建物再生・リノベーションの分野で活躍されている馬場正尊さんの講演を聴かせていただきました。聴いていると自分もリノベーションの仕事をしてみたくなるほど情熱的かつ楽しい講演で、時間があっという間に過ぎてしまいました。

地域実践活動、馬場さんの講演と、新しいことに挑戦し、困難も楽しまれている方々の姿勢に、刺激をいただいた一日となりました。

最後に。「集い」の魅力は、人との交流と、会場に満ちる活気にふれること抜きには語れません。参加されたことがない方は、ぜひ一度参加してみてください。

やる気が充電されますよ！



▲会場の掲示は統一して「マル」を使ったデザイン。オシャレです！

TOPICS 情報

親睦ソフトボール大会のお知らせ

平成 27 年 10 月 18 日 (日) 荒尾運動公園にて開催予定です。



中島 範幸

■有限会社 熊積建築事務所

韓国 慶尚南道建築士会への訪問を終えて

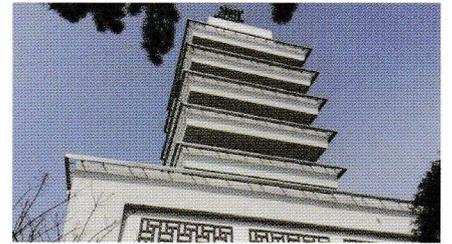
平成 27 年 4 月 16 日～18 日の 2 泊 3 日で鎮海、海雲台・海東龍宮寺の視察研修に参加させて頂きました。今回、交流委員会であることと、隣の国なのに知識を持っていないことで、参加を決めました。

初めに見学した場所は、安骨倭城という城跡で 1593 年に日本人によって築城されたものです。現在は、石垣しか残っていませんが、豊臣秀吉の文禄の役時代に長期間の駐屯のための基地として利用されていました。高台の眺めが良い所で、敵の侵入も難しい場所ですが、上り下りが大変で筋肉痛になりました。



次は鎮海市に行きました。そこは、日本人によって建てられた郵便局や、木造建築物が残っており、昭和の風景が思い出されるような場所でした。

高台には、鎮海塔があり、1967 年に建てられたものですが、元は、日本海軍により 1927 年に建てられた日露戦争戦勝記念塔があったところのようです。



初日の夜は、韓国慶尚南道建築士会との交流会に出席し韓国の民謡や国際交流経過報告がありました。韓国の方の熱意と歓迎ぶりが感じられる会となりました。私自身、韓国語は全く話せなく、会話は、英語の単語程度でしたが、隣の席になったキムさんが、少し日本語を理解されているようで、問題なく過ごせました。最後は韓国人 6 人と日本人 2 人で良い交流会となりました。

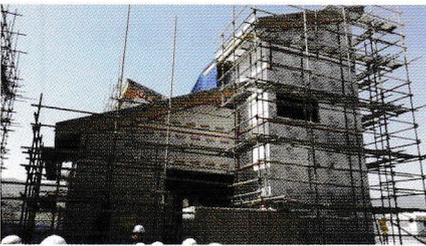


TOPICS 情報

第 58 回 建築士会全国大会（石川大会）のお知らせ

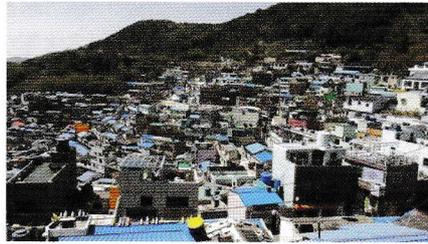
平成 27 年 10 月 30 日（金）石川県立音楽堂にて開催されます。

2日目は、韓国の木造住宅の現場見学に行きました。韓国は、一戸建て住宅よりマンションの比率が多く、日本ほど耐震を考慮していない建物が多い印象です。建設工事現場を見学できた事が良い勉強となりました。

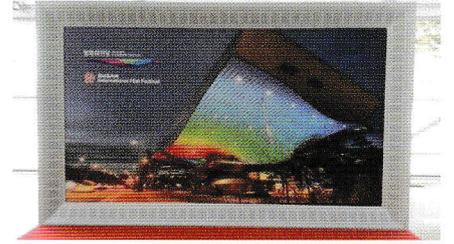


次は甘川洞文化村に行きました。別名、釜山のマチュピチュと称されている場所です。もともと朝鮮戦争の際に北朝鮮側から戦争を逃れるために、逃げてきた避難民たちが集まって出来た集落です。現在は町おこしプロジェクトが進められ、町全体がカラフルにカラーリングされて、地域景観としても

刺激になりました。道幅は狭く、迷路のようで、もっと奥まで見学したかったです。



次は映画の殿堂に行きました。釜山国際映画祭が毎年行われ、世界最大の広い屋根としてギネスブックに登載されている場所です。160m片持ち梁という事で、すごい一言でした。



以上で見学した場所をご紹介致しましたが、この韓国訪問を文章でお伝えするのは、大変難しかったです。3日間、言葉は話せませんでしたが、良い交流が出来たことが一番の思い出でした。

来年は、慶尚南道建築士会が来熊です。また韓国の方と再会できたらと思っております。



地域貢献活動事例報告書

活動団体名	バリアフリーデザイン研究会	事業名	地域スケール(特性) 発見による地域の活性化
<p>●活動の概要</p> <p>今年度は、昨年度作成したカラーユニバーサルデザインに配慮した魅力的なマップを元に、商店街の理事会及び店主の方々との関係を深め、今後の課題を発見するためにヒアリング調査、座談会など開催。「これからの子飼商店街」について店主の方々との話し合いを今後の活動に繋げるとともに、昨年度のマップが好評だったことを受け、店主の方々の意見も取り入れ改良し再発行した。</p>			
<p>●活動組織の概要</p> <p>活動組織は、ハンディキャップのあるなしにかかわらず、日常生活や社会活動を行うことが保障された生活環境を形成することを目的としている。高齢化が進む旧市街地の商店街に対して、地域住民の生活を保障するためには商店街の活性化が重要だと考え、商店街店主と共に活性化に取り組む。</p>		<p>●他の団体・専門家との連携</p> <p>建築士会、熊本大学の学生と連携し、活動を繰り広げた。昨年度発行したマップの改良においては、UDくまもとに監修をお願いし、より見やすいマップ作りに取り組んだ。</p>	<p>●建築士の関わり</p> <p>バリアフリーデザイン研究会の建築士メンバーを中心に活動を組み立て、調査・マップ作成には学生に協力してもらい活動した。</p>
<p>●活動のきっかけ</p> <p>子飼商店街は熊本大学のすぐ近くにあり、近所には学生の住まいも多く、商店街を通学路として利用している。昨今では空き店舗も出てきており、地域を活性化するには地元の人とここを訪れる人の交流が行われる必要があると考え昨年度に活動をスタートさせた。</p>			
<p>●活動の内容と成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎学習：8月2日。子飼商店街の歴史、過去の商店街での活動について学ぶ。(参加者8名) 2. 商店街理事との会合：(初顔合わせ)8月26日。理事の方々に地域貢献活動説明。(参加者4名+理事会) 商店街にある2つの組合の合同理事会・理事打ち合わせ等→10月8日、1月25日 子飼繁栄会商店街振興組合理事打ち合わせ→10月29日、12月20日 3. 商店街現状調査：11月8日(土)。子飼商店街の利用状況、UDチェック。(参加者7名) 4. 空き店舗調査：11月8日。子飼商店街で活用できる空き店舗、現況調査。(参加者4名) 12月20日、空き店舗活用プラン3案作成、報告。 5. 商店街来街者ヒアリング調査：12月6日(土)百円笑店街時に100件ヒアリング調査。(参加者8名) 1月8日(木)平日時のヒアリング調査。(参加者7名) 6. 商店街近郊単身世帯ヒアリング調査：9月20日(1世帯)、12月20日(2世帯)合計3世帯 7. 商店街ワークショップ：2月13日(金)。商店街店主及びバリ研関係者座談会。(参加者19名) 8. 商店街マップ改良：2月～3月 9. バリアフリーデザイン研究会内ミーティング(全体ミーティング6回、プロジェクトメンバーミーティング5回) <p>昨年度の課題を受け、今年度の活動は上記とおり、商店街店主の方々との交流、来街者の方々からのヒアリング等、商店街に根差した活動をしてきた。その結果、空き店舗を活用し、近隣住民との交流、地域の活性化に繋がりたい意思が伺え、今後の商店街での地域貢献活動の課題を発見することができた。</p>			
<p>●今後の課題</p> <p>活動のきっかけとして、地域を活性化するためには地元の人と訪れる人の交流が必要であることを掲げた。昨年度の課題を受け、商店街の理解を得るために今年度は商店街店主の方々との座談会を企画。度重なる商店街との打ち合わせで問題点を把握できた。今後は、問題点の一つである空き店舗について、どのように活用したら活性化に繋がるのか、その点を課題として次年度以降の活動としたい。</p>			
<p>●今後の計画</p> <p>今後の課題として挙げた空き店舗の活用について、今後は商店街店主の方々との話し合いを重ね、具体的に進めることができたらと考えている。地域貢献活動は継続性が大切である。継続性は地域の人々と一緒に取り組むことにより生まれる。このことを念頭に置き、次年度以降も活動を続ける予定である。</p>			
報告書作成者	所属 公益社団法人熊本県建築士会 女性部会		氏名 持田 美沙子
連絡先	TEL 080-8398-5654	FAX	e-mail : mocchi.1116@gmail.com

地域貢献活動の資料・写真など(必要に応じて添付して下さい)

1. 基礎学習：8月2日(土) 9:30~12:00。白川わくわくランド (参加者8名)

- ①子飼商店街での過去の研究および活動について
- ②子飼商店街の現状、歴史、お祭り
- ③やさしいまちづくりアドバイザー養成講座での活動
- ④「高齢者が生き生きと暮らせるまちづくりの手引き」より
- ⑤今年度の活動についての意見等

これらのことについて、勉強会の場を設け、今後の計画を具体的に建てた。



2. 商店街理事との会合

①8月26日(火)19:00~。子飼繁栄会組合事務局にて(参加者4名+理事会)

子飼商店街理事の方々との初顔合わせをし、理事の方々に地域貢献活動の説明及びバリアフリーデザイン研究会の取り組みについて説明を行った。

また、子飼商店街の店主として気になる点、取り組みたい点のヒアリング。

補助金をもらって活動している百円笑店街等の話、今後、補助金を貰って空き家活用を行いたい旨を聞いた。

②10月8日(水)19時~。8月26日に頂いた課題(補助金について)の調査報告を行った。

③10月29日(水)19時~。子飼商店街に現存する2つの組合のうち、繁栄会より、空き店舗活用の相談を受け、理事会に対して改めて補助金の説明を行った。

④12月20日(土)。11月8日の空き店舗調査を受け、空き店舗活用プラン3案作成し、報告。



3. 商店街現状調査：11月8日(土)10:00~。子飼商店街の利用状況、UDチェック。(参加者7名)

学生2名を含むバリアフリーデザイン研究会メンバー合計7名で商店街調査を行った。調査では、子飼橋側から藤崎宮側までの商店街の路面、休憩場所の有無、トイレの位置、店舗入り口の段差、サインの現状等に目を配りながら、丁寧に確認。時折、店主の方々との会話で来店者の状況を確認した。

4. 空き店舗調査：11月8日14:00~。空き店舗、現況調査。(参加者4名)

商店街現状調査の日の午後から、学生3名、女性部会1名合計4名で相談のあった空き店舗の現況調査を行った。店舗の測量、構造の確認、道路との関係、上下水道の状況などを調査。同時に、商店街の理事の方から、どのような利用方法をしたいのかヒアリングも行った。



5. 商店街来街者ヒアリング調査

①12月6日(土)10:00~百円笑店街時に100件ヒアリング調査。(参加者8名)

商店街で3か月に1回開催されている百笑店街当日、商店街の利用のしやすさ等UDの視点も入れて作成した調査票を元に、ヒアリング調査を行った。

②1月8日(木)平日時のヒアリング調査。(参加者7名)

日常の来街者に対してもヒアリング調査が必要と考え、平日の昼間に、熊本大学の学生に依頼し、50件のヒアリング調査を行った。

以下、調査結果の一部である。

イベント時は平日と比べると中間世代が多いことがわかる。また、平日は、70代以上の世代が極端に多く、商店街近辺には高齢者が多く住んでいることがわかる。

